

描かれた加害

—坂本正直が向き合った戦場体験—

莫愁湖—馬たちはみていた (1984)

2024年12月5日 (木) ~12月21日 (土)

立命館大学国際平和ミュージアム1階企画展示室

宮崎生まれの画家・坂本正直 (1914~2011) は、輜重兵として中国・台湾で二度の従軍体験があり、復員後は美術教師を務めながら、生涯にわたって戦争をテーマに作品を作り続けました。本企画では、坂本が特に強いこだわりを持って取り組んだ戦場での加害行為に関わる作品の展示を通じて、一人の兵士がどのように加害者となっていき、その体験と戦後どのように向き合ったのかを考えます。

12/7 (土)

10:00~12:30

絵画と対話するワークショップ

所 薫子 (坂本正直記念館)

笠井 綾 (宮崎国際大学)

村本 邦子 (立命館大学)

12/14 (土)

10:30~12:00

対談

「坂本正直作品の行方」

所 薫子 (坂本正直記念館)

田 歙 美紀

(立命館大学国際平和ミュージアム)

ギャラリートーク

所 薫子 (坂本正直記念館)

12/21 (土)

10:30~12:00

ギャラリートーク

所 薫子 (坂本正直記念館)

対談

「父の戦場体験と向き合うことの意味と困難」

所 薫子 (坂本正直記念館)

中村 江里 (上智大学)

展示関連イベント

12/7のワークショップ以外は事前参加申し込みは不要です。

また、12/14, 21のイベントは手話通訳があります。

その他、展示やイベントに関するお問い合わせは、中村までご連絡ください。

中村江里 (enakamura@sophia.ac.jp)

12/7 (土)

10:00~12:30 絵画と対話するワークショップ (ミュージアム2階セミナー室1)

※こちらのワークショップは、対象年齢18歳以上とさせていただきます。

坂本正直が遺した、絵画、手帳、スクラップブックは、私たちに何を語りかけるのでしょうか？このワークショップでは、ギャラリートークの後、小グループでインタラクティブに展示を鑑賞したり、簡単なアート表現 (からだの動き・散文・イメージなど) を使って絵画や展示品と対話したりします。展示作品を事前にご覧いただくことをおすすめします。

所 薫子 (坂本正直記念館)

笠井 綾 (宮崎国際大学国際教養学部准教授)

村本 邦子 (立命館大学大学院人間科学研究科教授)

※ワークショップは定員10名で事前申し込みが必要です。

以下のフォームもしくはURコードからお申し込みください。

<https://forms.gle/bYx2wvAofubK5B9D8>



12/14 (土)

10:30~11:20 対談 (ミュージアム2階ピースコモンズ)

坂本正直の作品は出身地の宮崎県を中心に、海外にも收藏されています。それらの作品はどのように受け継がれていくのでしょうか。作品を預ける側、受け取る側の思いと博物館の裏側を通して、資料を伝えていく意味を考えます。

所 薫子 (坂本正直記念館)

田 敏 美 紀 (立命館大学国際平和ミュージアム学芸員)

11:30~12:00 ギャラリートーク (ミュージアム1階企画展示室)

所 薫子 (坂本正直記念館)

12/21 (土)

10:30~11:00 ギャラリートーク (ミュージアム1階企画展示室)

所 薫子 (坂本正直記念館)

11:10~12:00 対談「父の戦場体験と向き合うことの意味と困難」
(ミュージアム2階セミナー室1)

家族の中に閉じ込められた戦争の記憶、特に戦場での加害行為と向き合うことは時に痛みを伴います。それでも向き合うことの意味や困難をどのように考えるか、本展示の企画者二人が語り合います。

所 薫子 (坂本正直記念館、坂本正直長女)

中村 江里 (上智大学文学部准教授)